

平成28年度石川県計画に関する 事後評価

令和2年1月
石川県

3. 事業の実施状況

平成28年度石川県計画に規定した事業について、平成30年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業区分1：地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.1 (医療分)】 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備	【総事業費 (H30)】 3,000 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	希望する医療機関	
事業の期間	平成28年10月1日～令和5年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	構想上必要とされる回復期病床約2,700床の整備を行うには、病床の転換に向けた施設・整備が必要不可欠である。 アウトカム指標：回復期を担う病床の数 約3,700床 (H37)	
事業の内容 (当初計画)	医療機関の機能分化・連携により、効率的かつ効果的な医療提供体制の構築を図るため、以下の施設・設備の整備に対して支援を行う。 ・本県で大幅な増床が必要と考えられる回復期病床への転換に必要な施設・設備の整備 など ※ 地域医療構想の内容に応じ、回復期に限らず、本県で不足または、充実が必要とされる機能の整備や、過剰な病床機能からの転換等に 必要な施設・設備の整備に対して支援を行う予定。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	回復期への転換を行う病床数 約200床/年	
アウトプット指標 (達成値)	回復期への転換を行う病床数 152床 (H31.7)	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：回復期を担う病床の数 1,836床 (H30.7) (1) 事業の有効性 本事業の実施により、高度急性期機能の強化を図ることにより、病床の機能分化が進み、回復期病床への転換が152床進んだ。 (2) 事業の効率性 高度急性期機能の集約化を図ることにより、効率的に病床の機能分化が進んだと考える。	
その他		